

イベント復活！
より多くのご利用者に楽しんで頂きたい

社会福祉法人梓友会
介護老人福祉施設みくらの里
管理栄養士 菊地裕美



太陽の里



梓の里



エクレシア南伊豆



みくらの里



みなとの園



小規模
みくらの里



伊豆半島

西伊豆町

下田市

南伊豆町

みくらの里

【概要】

静岡県下田市吉佐美1086

開設： 2005（平成17）年2月25日

建物： RC3階建て

定員： 特養80名、短期20名、通所30名

介護度： 3.76（R6.5月現在）

職員数： 74名（介護職52名　うち介護福祉士24名）（R6.1月現在）



【主な取り組み】

* 2006（平成18）年3月　ISO9001を取得

* 2006（平成18）年11月　認知症ケアとして、くもん学習療法を開始

* 2013（平成25）年4月　県内2番目のユニットリーダー-実地研修施設として認定

法人紹介



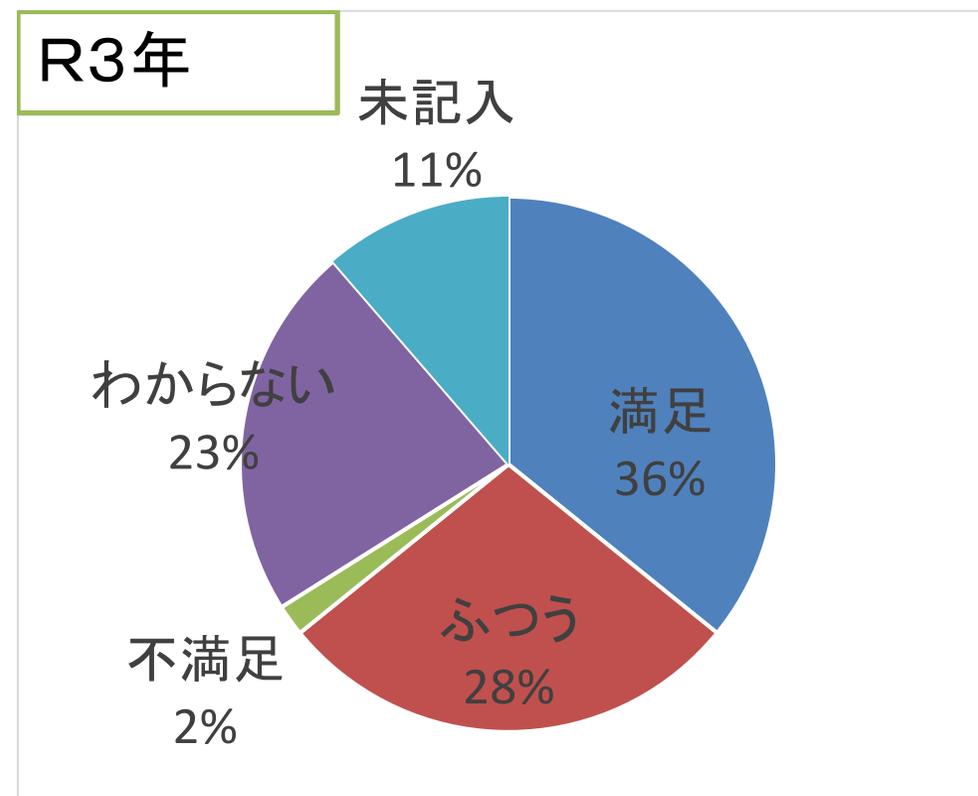
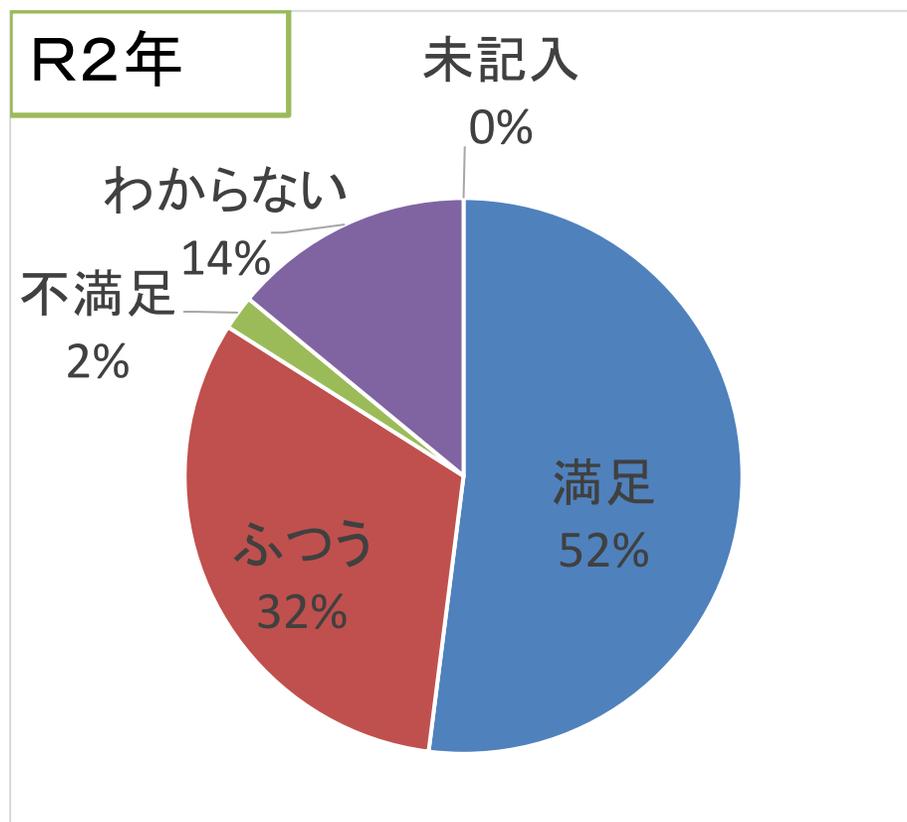
社会福祉法人梓友会

下田市と賀茂地域に最高のケア、個人の選択権、
QOL(生活の質)を最大限にする
総括的な高齢者の福祉サービスを提供する。

1. 選ばれる施設を目指して、顧客満足度の向上に努力する。
2. 自立支援とQOL(生活の質)を重視した、良質のサービスを提供する。
3. ノーマライゼーションの実現を通して、地域福祉の増進に貢献する。

【課題】

ショートステイご利用者を対象に年1回実施している嗜好調査の結果、令和3年度では、「イベント・行事食」に関して「満足」と回答された方が令和2年度の52%から36%へ減少した。さらに「参加したことがないからわからない」と回答された方が14%から23%へ増加していた。



【考えられた要因】

コロナ感染症対策としての制限

- ・月に1回の実施が基本
- ・2ユニット20名を1つのユニットに集めるイベントの禁止
(ユニット内で過ごすようにしていた)
- ・バイキング形式の禁止
- ・栄養士がユニット外で作ったものを提供
- ・目の前で作るイベントは禁止
- ・一緒に作る「おやつ作り」を禁止
- ・各ユニットでの短時間での実施、装飾なし



イベント感がない

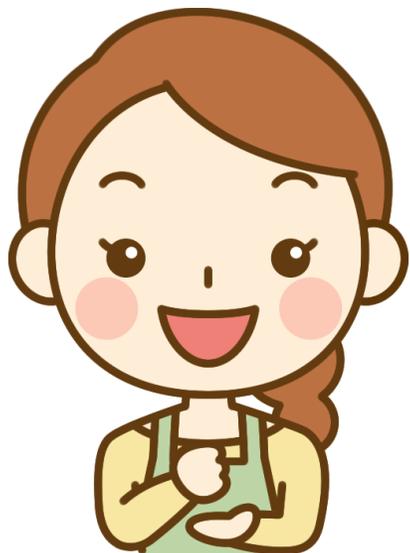
回数が少ない
イベントの日に利用日が当たらない

記憶に残りにくい



コロナ感染症が消滅することはないのに
制限し続けることが良いのか？

ショートステイをご利用する楽しみが
減っているままで良いのか？



感染症が発生していない時は今まで通りのやり方
にしよう

イベントの回数を増やして
できるだけ多くの方に参加してもらえようようにしよう

【令和4年度の取組】

- ・ イベントの回数を月1回から2回（月の前半と後半に実施）へ増やした。
- ・ 目の前で作って提供するイベントやバイキング形式を再開した。
- ・ 毎月、曜日を変えることでできるだけ多くの方に参加してもらえるようにした。
- ・ 毎回参加者名を記録し、参加者に偏りがいないか確認した。

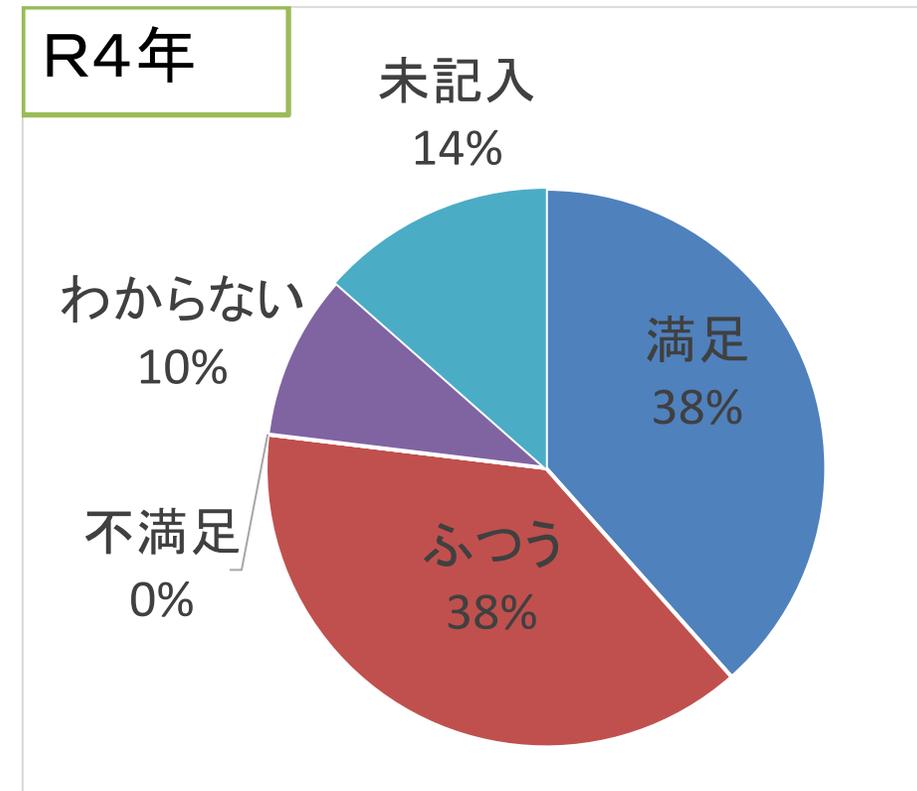
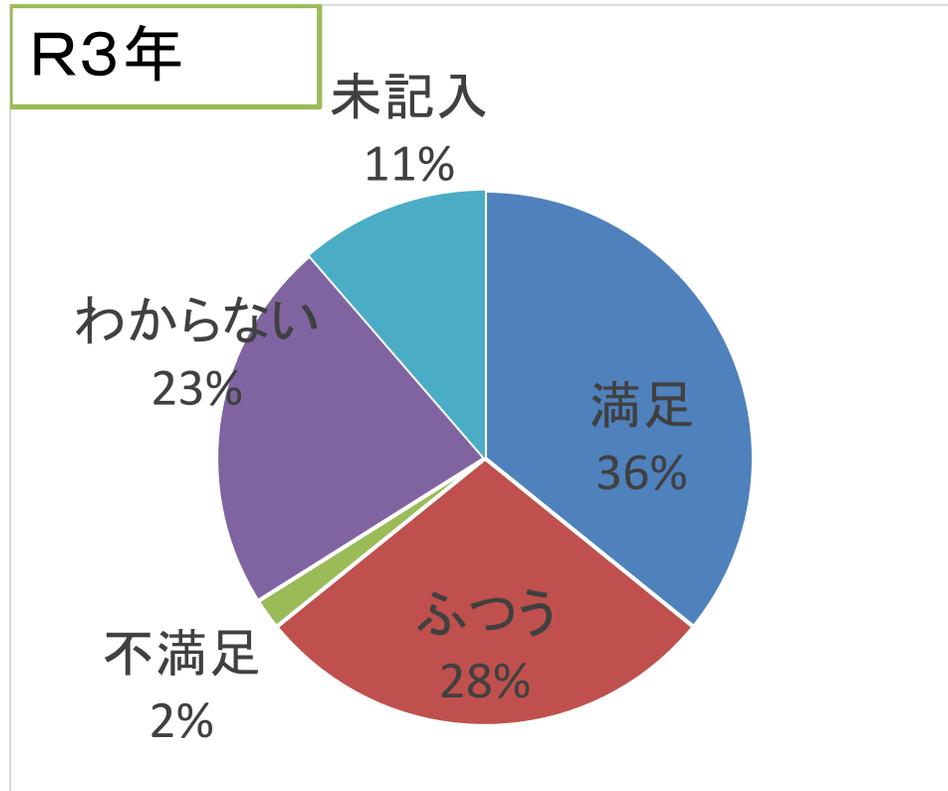
報告書

【件名】 ショート 手作りおやつ（シュークリーム）について	夏休書 第 号 報告書 施設 名称
報告日	令和6年 3月22日
決 算 日	令和6年 月 日
標記の件につきまして下記のとおりご報告いたします。	
記	
令和6年3月22日おやつ時に年間行事予定であるシュークリームを提供しました。 事前にお知らせし、おやつ時間を楽しみにされていました。	
シュークリームに生地は、カリカリサクサクに仕上がる予定でしたが、思っていたより 軟らかい仕上がりになりました。	
生クリームとカスタードクリームたっぷりシュークリームになりました。	
「わ～豪華～」と大きなシュークリームに驚き、皆さん笑顔で召し上がっていました。	
費用：1,810円	
参加者：16名	
●鈴木優子●鈴木悦子○大塚愛子○大川まつ子○半田裕紀○藤井優希○渋谷道子	
参加者名を記載	



【令和4年度の嗜好調査の結果】

- ・「満足」と回答された方が、やや増加した。
- ・「参加したことがないからわからない」と回答された方が23%から10%へ減少した。





満足度をもっと上げられないかな？

毎回参加者名を記録しているけど
ほんとに、参加者に偏りはないのかな



ラウンドを強化して利用者から要望を伺い、
イベントに取り入れよう。

イベント参加者一覧表を作成してみよう。

【令和5年度の取組】

- ・ 令和4年度の取組は継続。
- ・ 一緒に作業する「おやつ作り」を再開した。
- ・ ラウンドを強化し、利用者からの要望を取り入れたイベントを実施した。
- ・ イベント参加者一覧表を作成して、参加者に偏りがいないか確認した。

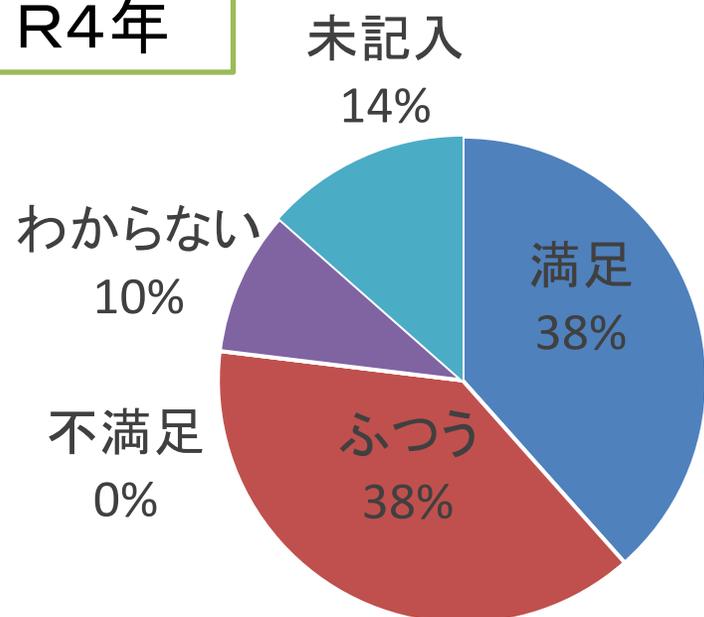
RS	4月5日	4月20日	5月19日	5月23日	6月2日	7月5日	7月20日	8月2日	8月21日	9月5日	9月22日	10月13日	10月23日	11月2日	11月22日	
1		○														
2		○														
3																
4																
5																
6																
7	○	○	○													
8	○	○	○													
9	○	○	○													
10	○	○	○													
11	○	○	○													
12																
13																
14																
15																
16																
17																
18																
19																
20																
21																
22	○	○	○													
23	○	○	○													
24	○	○	○													
25	○	○	○													
26																
27																
28																
29																
30																
31																
32																
33																
34																
35																
36																
37	○	○	○													
38	○	○	○													
39																
40																
41																
42																
43																
44																
45	○	○	○													
46	○	○	○													
47																
48																
49																
50																
51																
52																
53																
54																
55																
56																
57																
58																
59																
60																
61																
62																
63																
64																
65																
66																
67																
68																
69																
70																
71																
72	16	16	16	14	15	12	11	12	13	15	12	17	14	12	18	16



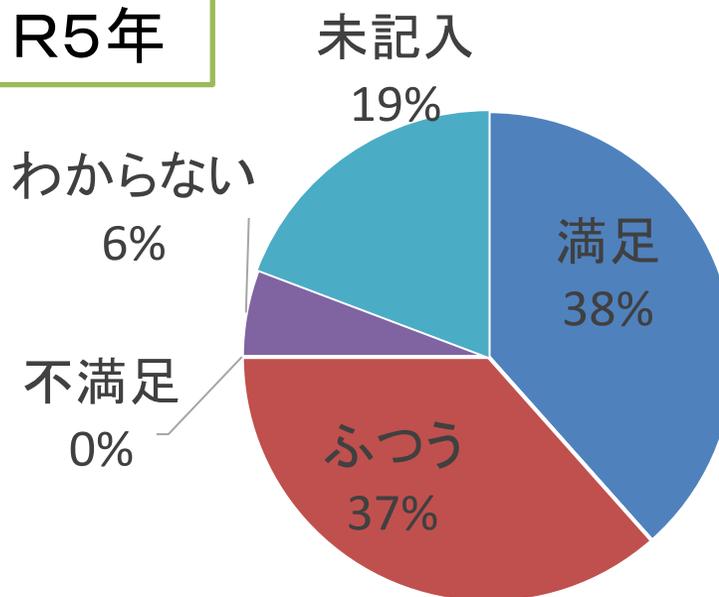
【令和5年度の嗜好調査の結果】

- ・「満足」と回答された方は、横ばいを維持となった。
- ・「参加したことがないからわからない」と回答された方は10%から6%へさらに減少した。
- ・イベント参加者一覧表を作成したことにより、「参加したことがないからわからない」「未記入」と回答された方の中には、参加されていた方がいることが分かった。参加者に偏りが無いことも確認できた。

R4年



R5年



【活動の成果と評価】

- ・月の前半と後半の2回、月ごとに曜日を変えて実施することで、参加者の偏りがなく、より多くのご利用者に参加してもらえることがわかった。
- ・イベント内容は記憶に残るよう思考を凝らしたこともあり、満足度がやや上がり、「参加したことがないからわからない」と回答された方は大幅に減った。
- ・「この前のケーキ、美味しかったよ」「またやってね」などの声が聞かれ、イベントを楽しみにされている様子が見られるようになった。
- ・一緒に作業する「おやつ作り」では、昔を思い出しながら楽しむ様子が見られた。「おはぎ作りをして楽しかった」と家に帰ってきてから話していたと感謝の声を頂いた。

【今後の課題】

以下の取組を継続することで、QOLや顧客満足度の向上に努めたい

- ・月の前半と後半の2回、月ごとに曜日を変えてイベントを実施する。
- ・利用者からの要望をイベントに取り入れる。
- ・半日常的（外食に来た気分）にするため2ユニット集めたバイキング形式を実施する。
- ・ご利用者と一緒に作業する「おやつ作り」を増やす。
- ・目の前で調理して提供することで視覚や嗅覚に働きかけ、記憶に残るようなにする。
- ・装飾を工夫してイベント感を出す。



【令和4年度に実施したイベントの紹介】

♥手作りおやつ・おやつバイキング



【令和5年度に実施したイベントの紹介】

♥手作りおやつ・おやつバイキング・おやつ作り



ご清聴ありがとうございました